

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26245051

研究課題名(和文)流通の有力理論・仮説にかんする研究

研究課題名(英文)A comprehensive study on the principal theories and hypotheses in the domain of retail and distributive trades (macromarketing)

研究代表者

東 伸一 (AZUMA, Nobukazu)

青山学院大学・経営学部・教授

研究者番号：70368554

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 15,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、流通に関する伝統的な有力理論・仮説を抽出した上で、それらの説明力や妥当性について、実際に生じた流通現象ならびに流通課業環境・制約環境に含まれる諸要因と関連する統計データを用いた考察を試みた。研究成果のうちの2点は国内の主要学会にて学会賞を受賞した。本課題の最終成果報告として、2018年度中をめどに流通に関連する220にのぼるテーマを理論、現象、データから論じる書籍の刊行が決定している。

研究成果の概要(英文)：This research placed a particular focus on revisiting the key concepts, traditional theories and hypotheses that are deemed to be central to the academic studies into retailing and distributive trades. Despite the importance of sharing these knowledge among the academics in this discipline across the globe, there have only been a handful of publications that tackle the issues. Such an ever widening gap between the potential strong need for it and the reality has made it difficult for the younger academics to tap into the research into the complex world of macro-marketing. It has also been a barrage for fostering international joint research activities.

In the face of these situations, this research project has made a long list of classic theories, models and hypotheses that are centered around retail and distributive trades and attempted to test their validity and relevance to the phenomenon in the real world and the data that are made public in the form of statistical accounts.

研究分野：流通、商業

キーワード：流通 商業 流通システム論 流通論 商学 理論研究 流通構造 流通現象

1. 研究開始当初の背景

流通は、生産と消費との間に生じる種々な隔たりを架橋することで需給を整合する社会的役割を果たす。流通の仕組みは、私たちの安全で快適な生活に不可欠であるだけでなく、商品のもつ効用をよりよく発揮させ、その価値を高める。国民経済の観点からは、効果的・効率的で公正性を有する流通システムの存在が、経済循環の有効性をもたらす。社会的分業が高度化した現代において、流通システムに期待される役割は、ますます大きくなっている。しかしながら、流通システムという巨大で複雑な社会的仕組みについて包括的に理解するためには、その現状とそこに至る史的プロセス、さらにはその将来展望を試みるための多面的な理論的視座と歴史知識が不可欠となる。このことから、流通領域における研究の必要性が学術的側面および実務的側面の双方において高いにも関わらず、流通研究を志す若手研究者に対する大きな参入障壁が存在している。また、国際的な共同研究に取り組む上でも、国や地域毎に本領域に関する理論的知識の共有が希薄であるとともに関連統計を用いた分析にも相違点が大いいため、研究活動の国際化における基盤知識の形成も重要な課題となっている。

2. 研究の目的

本研究課題では、流通研究をめぐる上述の背景に鑑み、流通に関する研究を志す上で不可欠となる同学術領域における代表的な古典的有力理論・仮説の概観を行うとともに、それらの理論的妥当性を現実に生起する流通現象とそれらに関連する諸データの分析結果にもとづいて考察することを試みている。また、本研究の最終成果を活用する形で、流通分野における国際研究を推進する上での共有知識基盤の形成に寄与したい。

3. 研究の方法

本研究課題は、流通研究に注力する全国の研究機関に所属する若手・中堅研究者を中心に研究組織を構成する一方で、研究分担者・協力者として同分野における複数の代表的研究者が参画し、双方が研究の各段階において進捗内容として提示された諸(経過)成果について議論を行い、必要に応じた修正を随時施行する形で取り進めた。具体的な研究方法としては、以下の流れに従った。

- (1) 有力理論・仮説の抽出と検討、体系化
- (2) 流通研究における諸概念の整理
- (3) 日本の流通とその課業環境・制約環境に関する重要な史的イベントの抽出
- (4) (1)～(3)の結節点の検討を通じた個別研究テーマの策定と研究活動の遂行
- (5) 理論と現象、データを媒介とした研究成果の執筆完了と編集、刊行(2018年度)

4. 研究成果

本研究課題では、流通に関する伝統的な有力

理論・仮説を抽出した上で、それらの説明力や妥当性について、実際に生起した流通現象ならびに流通課業環境・制約環境に含まれる諸要因と関連する統計データを用いた考察を試みた。研究成果のうちの2点は国内の主要学会にて学会賞を受賞した。本課題の最終成果報告として、2018年度中をめどに流通に関連する220にのぼるテーマを理論、現象、データから論じる書籍の刊行が決定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計19件)

東伸一(Nobukazu Azuma)、A Longitudinal Study on the Inter-type Competition Among Japanese Specialist Retail Multiples - Through QCA and Financial Analysis Approaches -、Aoyama Business Review、Vol.40、査読無、2018、印刷中

大崎恒次、牛乳流通の構造変化とその展開、流通問題、査読無、第53巻、2018、印刷中、

横山斉理・尾形真実哉、マルチレベル分析を用いた店頭従業員の能力獲得に関する実証研究、組織科学、査読有、2018、印刷中
峰尾美也子、小売構造変化の再考察 全体的動向を中心に、経営論集(東洋大学)、査読無、第89巻、2017、89-101

東伸一(Nobukazu Azuma)、An Exploratory Study on the Emergence and the Growth of Vertically Integrated Specialty Store Retailing: An Application of the Process Tracing Method、Aoyama Business Review、査読無、Vol.39.、2016、1-33

嶋正、ポーン・グローバル企業のマーケティング戦略、国際ビジネス研究、査読有、第8巻、2016、19-33

横山斉理、市場指向が小売店頭従業員の行動に与える影響 知識創造モデルに基づく実証分析、商学研究、査読無、第32巻、2016、25-43

岸本徹也、2030年に向けた店舗オペレーションの構築、食品商業、査読無、2016年3月号、2016、47-49

伊藤匡美、ジビエメニューで新しい食文化を提案 JR 東日本フードビジネスの長期的取り組みと6次産業化、時事通信社 Agrio、査読無、102号、2016、2-4

金雲鎬・日高優一郎・秋山秀一、ビッグデータはどのように小売企業の競争優位を高めるのか サプライヤー協調性を媒介変数として検討、マーケティング学会ワーキングペーパー、査読無、第2巻、2016、1-26

金雲鎬、伝統的情報システム活用が小売企業の競争優位に与える影響について、商学研究、査読無、第32巻、2016、5-23

森山一郎、ダイエーにおける牛肉事業の展開プロセスとその意義 垂直統合が競争

優位をもたらす要因、流通研究、査読有、第18巻、2016、101-118

横山 斉理、食品スーパーの顧客満足を設定する要因に関する経験的研究、流通研究、査読有、第17巻、2016、21-36

金雲 鎬、卸売における共同革新の再検討：情報技術を中心に、国民経済雑誌、査読無、第212巻、2015、75-90

東伸一、小売形態考、マーケティング・ジャーナル、査読無、第35巻、2015、34-49

戸田 裕美子、流通革命の再解釈、マーケティング・ジャーナル、査読無、第35巻、2015、19-33

Komiya, K., Inoguchi, J., 金雲 鎬 (Unho Kim), and Urakami, T., Market Orientation and Organizational Performance of New Business Development: Multiple-Case Studies of Small to Medium-sized Enterprises in Japan, The Proceedings of IMP Asia Conference, 査読有、2014

Hidaka, Y., 金雲 鎬 (Unho Kim), Akiyama, S., The Research into Understand the Effectiveness of Retailers' CRM towards the Strategic Implications for Efficient Consumer Response, The Proceedings of 12th SARD Workshop, 査読有、2014、1-20

柳 到亨・横山 斉理、商業集積における組織的活動をとらえるための視点 韓国ソウル市のトケビ市場の事例研究を手がかりとして、経済理論、査読無、378巻、2014、35-51

〔学会発表〕(計32件)

戸田 裕美子 (Yumiko Toda)、Failure in the Partnership between Daiei and Marks & Spencer: An Unknown History of Asian Strategy in M&S, The 19th Conference of the European Association for Education and Research in Commercial Distribution, 2017年7月5日(発表確定)、Dublin Institute of Technology (ダブリン市、アイルランド共和国)

東伸一、フードサービスにおけるチェーン店の盛衰についての研究 QCA を用いて、日本フードサービス学会、2017年6月3日、立教大学(東京都・豊島区)

戸田 裕美子 (Yumiko Toda)、Marks & Spencer's CSR Approach to Promotion of Healthy Eating, The 18th Conference of Historical Analysis and Research in Marketing, 2017年6月2日、John Moore University (リバプール市、英国)

鍾淑玲、日経コンビニのイノベーションと中国市場における埋め込み戦略、日本商業学会、2017年5月28日、兵庫県立大学(兵庫県神戸市)

東伸一、フードサービスにおける多店舗化と事業システムについての研究 事業システムの特性と活動成果の分析枠組みの検討を中心に、日本フードサービス学会、2017年3月10日、日本フードサービス協会(東

京都・港区)

東伸一、小売業者の垂直的統合に関する新視点からの評価、日本商業学会、2017年1月21日、大阪市立大学文化交流センター(大阪府・大阪市)

東伸一(西村順二氏・二宮麻里氏とのパネルディスカッション)、大きな環境変化の中にある現代の流通、日本商業学会、2017年1月21日、大阪市立大学文化交流センター(大阪府・大阪市)

東伸一、専門店小売チェーンの盛衰過程の財務的視点を導入した分析枠組みの試論、マーケティング史研究会、2016年12月10日、近畿大学東大阪キャンパス(大阪府・東大阪市)

横山 斉理、流通・マーケティング研究におけるQCAの適用可能性、日本商業学会、2016年9月17日、慶應義塾大学(東京都・港区)

横山 斉理、流通・マーケティング研究における質的比較分析(QCA)の適用可能性、経営学会研究会(法政大学)、2016年7月22日、法政大学(東京都・千代田区)

横山 斉理、食品スーパーにおける顧客満足の規定因 MRA と fsQCA を用いた検討、日本消費者行動研究学会、2016年6月18日、関西学院大学(兵庫県・西宮市)

金雲 鎬、卸売企業の ICT 戦略に関する研究 顧客適応化戦略を中心に、日本商業学会、2016年6月5日、千葉商科大学(千葉県・市川市)

金雲 鎬、小売企業はオムニチャネルから収益を得られるのか、日本商業学会、2016年4月16日、大阪市立大学(大阪府・大阪市)

横山 斉理、店頭従業員の能力獲得に関する研究 外部要因を考慮したマルチレベル・アプローチ、サービス学会、2016年3月28-29日、神戸大学(兵庫県・神戸市)

金雲 鎬、ビッグデータはどのように小売企業の競争優位を高めるのか、日本商業学会、2016年3月5日、北海道大学(北海道・札幌市)

鍾淑玲 (Chung Sulin)、The Localization Process of FamilyMart in Thailand and Its Relationship with Building Dynamic Capabilities, Hawaii Global Conference on Business and Finance, 2016年1月4-7日、(ホノルル市・アメリカ合衆国)

大崎 恒次・赤松直樹・西原彰宏・圓丸哲麻・中見真也・福田怜生、加工食品における日本型 PB に関する研究 牛乳類に注目して、経営情報学会、2015年11月29日、沖縄コンベンションセンター(沖縄県・宜野湾市)

金雲 鎬、オムニチャネルにおける理論的・実践的課題、日本マーケティング学会、2015年11月29日、早稲田大学(東京都・新宿区)

横山 斉理、小売店頭知識の共有問題、日本マーケティング学会、2015年11月29日、早稲田大学(東京都・新宿区)

東伸一、流通技術の進展とその活用可能

性、日本マーケティング学会、2015年11月29日、早稲田大学(東京都・新宿区)

②① 中見真也・大崎恒次・福田怜生・赤松直樹・西原彰宏・圓丸哲麻、価値共創型食品スーパーにおける消費者視点のPB研究、日本商業学会、2015年11月14日、中村学園大学(福岡県・福岡市)

②② 嶋正、ボーン・グローバル企業のマーケティング戦略、国際ビジネス研究学会、2015年10月24日、日本大学商学部(東京都・世田谷区)

②③ 鍾淑玲、ファミリーマートのダイナミック・ケイパビリティの形成とタイにおける現地化プロセス、アジア経営学会、2015年9月12-13日、立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府・茨木市)

②④ Komiya,K,Inoguchi,J, 金雲鎬(Unho Kim),and Urakami,T., Market Orientation and Organizational Performance of New Business Development: Multiple-Case Studies of Small to Medium-sized Enterprises in Japan, IMP Asia Conference, 2014年12月7-10日、Sanur Paradise Plaza Hotel(バリ島・インドネシア)

②⑤ 戸田裕美子、流通革命論の再検討、日本流通学会、2014年11月23日、阪南大学(大阪府・松原市)

②⑥ 横山斉理、チェーン小売企業の実証分析におけるマルチレベル分析の適用 一般線形モデル(GLM)と階層線形モデル(HLM)の比較、日本マーケティング学会、2014年11月23日、早稲田大学(東京都・新宿区)

②⑦ 東伸一、専門店の商品調達ネットワーク、日本商業学会、2014年10月25日、同志社大学今出川キャンパス(京都府・京都市)

②⑧ 東伸一、サービスと流通について、日本商業学会、2014年9月27日、明治大学駿河台キャンパス(東京都・千代田区)

②⑨ 金雲鎬(Unho Kim)、A Study on the Influence of CRM Activities by Retail Companies to their Business Relationship in a Mature Market, 7th Oxford Asia Retail Conference, 2014年9月25-27日、National University of Singapore(シンガポール市・シンガポール)

③⑩ 横山 斉理(Narimasa Yokoyama) and Ryu,D.H., The Characteristics of Japanese Small and Medium-sized Retailers' Business Succession, 7th Oxford Asia Retail Conference, 2014年9月25-27日、National University of Singapore(シンガポール市・シンガポール)

③⑪ 横山斉理、地域スーパーの競争優位に関する考察:顧客満足と店頭従業員に着目した経験的研究、日本マーケティング学会、2014年5月30日-6月1日、一橋大学(東京都・国立市)

③⑫ 金雲鎬、顧客データと小売業の取引関係 購買履歴データを中心に、日本商業学会、2014年5月30日-6月1日、一橋大学(東京

都・国立市)

〔図書〕(計12件)

東伸一・懸田豊・三村優美子・横山斉理・金雲鎬(編著)、有斐閣、データブック 流通と商業 理論と現象、データから考える、2018、印刷中

戸田裕美子、同文館出版、P.T.チェリントン、マーケティング学説史(アメリカ編)2(第12章所収)、2018、印刷中

東伸一、同文館出版、P.H.ナイストロウム、マーケティング学説史(アメリカ編)2(第7章所収)、2018、印刷中

大崎恒次、白桃書房、メコン地域における日本の小売業にかんする研究、メコン地域におけるビジネス教育の実態(所収)、2018、印刷中

崔相鐵・崖本徹也(編著)、中央経済社、1からの小売業、2018、印刷中

戸田裕美子、中央経済社、交換・制度変化・マーケティング、マーケティング理論の焦点 企業・消費者・交換(所収)、2017、272

鈴木安昭・東伸一・懸田豊・三村優美子、有斐閣、新・流通と商業 第6版、2016、287

関根孝・住谷宏・田中正朗・嶋正・渦原実男、同文館出版、商学通論9訂版、2016、280

伊藤匡美、中央経済社、小売流通と情報、現代の小売流通第2版(所収)、2016、266

伊藤匡美、創成社、フードサービスと流通、現代フードサービス論(所収)、2015、291

森山一郎、同文館出版、リユースの生活 もうひとつの流通、消費変質:エディターシップ時代の到来(所収)、2015、271

崔容熏・原頼利・東伸一、有斐閣、はじめの流通、2014、272

6. 研究組織

(1) 研究代表者

東伸一(AZUMA, Nobukazu)
青山学院大学・経営学部・教授
研究者番号:70368554

(2) 研究分担者

横山 斉理(YOKOYAMA, Narimasa)
法政大学・経営学部・教授
研究者番号:70461126

峰尾 美也子(MINEO, Miyako)
東洋大学・経営学部・教授
研究者番号:30349930

懸田 豊(KAKEDA, Yutaka)
青山学院大学・総合文化政策学部・教授
研究者番号:60194693

大崎 恒次(Osaki, Koji)

専修大学・商学部・准教授
研究者番号：70712678

森山 一郎 (MORIYAMA, Ichiro)
静岡文化芸術大学・文化政策学部・教授
研究者番号：60508985

嶋 正 (SHIMA, Tadashi)
日本大学・商学部・教授
研究者番号：30187421

岸本 徹也 (KISHIMOTO, Tetsuya)
流通科学大学・商学部・教授
研究者番号：00405929

伊藤 匡美 (ITO, Masami)
東京国際大学・商学部・教授
研究者番号：20523012

鍾 淑玲 (CHUNG, Sulin)
東京工業大学・社会理工学研究科・准教授
研究者番号：30381338

金 雲鎬 (KIM, Unho)
日本大学・商学部・准教授
研究者番号：10410383

戸田 裕美子 (TODA, Yumiko)
日本大学・商学部・准教授
研究者番号：50383948

住谷 宏 (SUMIYA, Hiroshi)
東洋大学・経営学部・教授
研究者番号：70163061

田中 正郎 (TANAKA, Masao)
青山学院大学・経営学部・教授
研究者番号：30155163

(4)研究協力者

矢作 敏行 (YAHAGI, Toshiyuki)
法政大学・名誉教授
研究者番号：40230289